

さんぽみち



発行 わがまち大田鵜の木地区推進委員会

連絡先
鵜の木特別出張所
☎ 3750-4241

楽しい夏休みに向けて

たのしい夏休み

嶺町小学校長 駒村智津子

昼間の暑気は残っているものの、多摩川の川風は涼しく、ゆったりとした気分で見物物が出る、鵜の木住まいの方々は、幸せですね。土手の草むらにこぎを敷き、デッキチェアを出して、ゆらゆらお御家族を横目に、うらやましがりつつ、家路につきました。

子どもにとつて夏休みは、七月の初めから開始です。今年、どのように過ごしてみようかしらという待ち遠しさも、夏休みの渦中にいるのと同じ気分です。

家の方々は、海に山にと出掛けることを夏休みのメインとお考えの向きもあります。多摩川に面したこの町は、じっくり眺めると町のすばらしさが強く浮かびます。夕焼け空の色の変化も朱色・金色・バラ色・すみれ色・藍色・紅と色の変化をことばであらわしてみてもすてきです。

土手の草がよく刈り払われていました。イネ科の草の枯れるときのあのむせるようなにおい、昼間の草いきれ、夕やみが濃くなる中で、パンパン、パチパチと火花の音、風に乗って漂ってくる火薬のにおい。朝、まだ空気が冷えている頃、川向こうから空気をさくように聞こえてくる金管楽器、トランペットの音、音の数々。

土手に現われてくる動くものは

ゴルフボール、サイクリングする自転車、散歩する犬、ジョギングする人、カヌーを担いで水辺へ行く人、強い陽差しの下で、野球ボールやサッカーボールを追う人。

東京の中の恵まれた自然環境の中でくり広げられる催しも多彩です。嶺町小学校プールは、八月三日〜十日まで地域の方々に開放されます。水質は良く、とても快適です。

子どものための催しは、嶺町夏まつり、青少年の野球大会、バスケットボール大会等が、計画されています。《昨日とちがう今日》にするのは、自分自身の姿勢です。

大森第七中学校長 野口 和矩
おとなになつて、中学校時代の夏休みが、楽しくなかったという人は、ほんのどいと思ひます。みんな楽しい思い出をもつていきます。

おとなの人も実際に夏休みを過ごしている時は、楽しいとか、つまらないとかは、あまり感じないで過ごしていたと思います。たゞ、一人で過ごしていて、楽しかったという人は少ないでしょう。

大部分が、友人や家族の人達と共に過ごしたから楽しかったといえるのではないのでしょうか。生徒達には、友人・家族はもちろんです。が、ぜひ地域の友達と一緒に過ごす時間を多く、つくってほしいと思っています。

特に、鵜の木地区では、いろいろな行事が計画されており、地域の方々が、大変熱心で、自分の地域を愛し、大切にしています。地域の行事に参加し、地域の方々と共に汗を流すことが生徒達の人生の中で、大きな財産となるはずですよ。

「若い時に汗を流さなかった者は老いてから涙をながす」といわれています。ぜひ、積極的に参加して汗を流してほしいと願っております。そこで地域の方々へお願いです。

「若い時に汗を流さなかった者は老いてから涙をながす」といわれています。ぜひ、積極的に参加して汗を流してほしいと願っております。そこで地域の方々へお願いです。

ですが、中学生の年ごろは、参加しなくても、自分から進んで参加するということは、なかなかできません。近くに、中学生が居りましたらぜひ、地域の方々から参加を呼びかけていただければ、きっと、夏休みのすばらしい思い出ができると思ひますのでよろしくお願いいたします。

また、夏休み中、大森七中PTAでは夜間パトロールを行っております。毎年地域の方々にはご理解をいただき、青少年の方々に積極的に協力をお願いいたします。

地域の皆様には夏休み中、いろいろと迷惑をおかけすることもありますが、生徒達が健全な生活を送るため、温かい目で接していただきますようお願いいたします。



わがまち有名人

心なごむ町

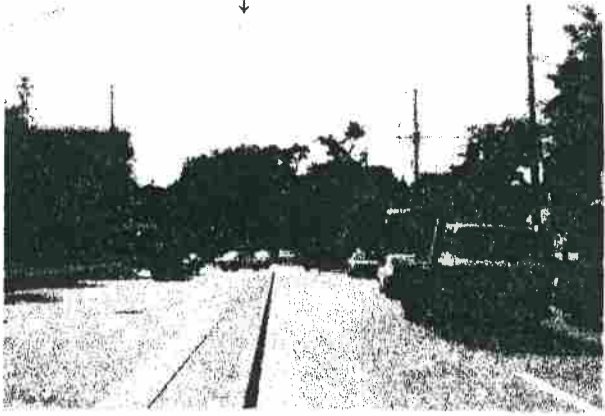
千鳥一丁目 竹本 朝重
(女流義太夫)

千鳥とは、この喧騒の世の中に
なんとなくほっとする様な地名に
思えますし、そして鵜の木、昔は
鵜がいたのでしょうか。鳥に縁あ
るこの地は、きつと以前はもつと
もつと縁も多かつたに違いありま
せん。私は十四年前にここへ移り
住みました。
義太夫節は昭和二十四年から歩み
続けている道ですが、この春思い
もかけず、紫綬褒章をいただく栄
誉に浴しました。当然の事ながら

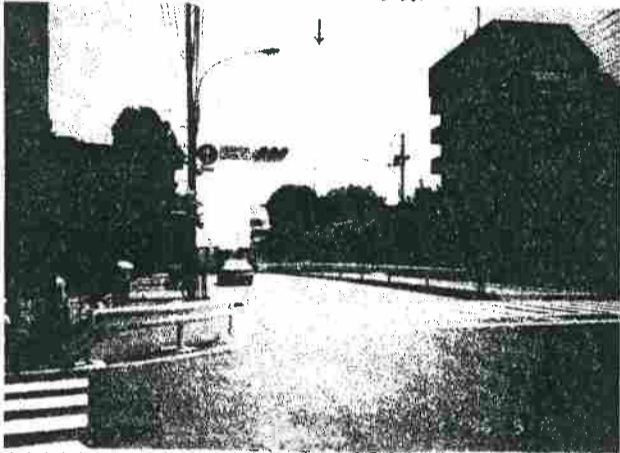
今昔うつりかわり

昭和50年頃環八白山神社の前に
移転先なくメッキ工場が永くあり
ました。天明茂光邸が文化保護を
受け話が進まず、何年か通行止め
でした。
光明寺前も墓地の移転が進まず、
鵜の木地区は交通に困っておりま
した。今ではビルも出来、町民も
喜んで居ります。

昭和50年頃の環状八号線



現在の環状八号線



地域の戦後50年史

今、暗渠となつて、見る事も出
来ませんが、曾ては灌漑のため
の六郷用水が鵜の木の中程を南北
に貫流していました。その頃は水
量も豊富で、魚の影も、川底の石
までも鮮やかに見る事が出来る程
澄んでいて、付近住民は計り知れ
ない恩恵を受けていました。その
一例として、野菜を洗う為め設け
られていた「洗い場」を掲げるこ
とが出来たでしょう。当時鵜の木
のうち一番上流に架かつていた橋
を護摩堂橋と云いましたが、その
橋寄りに有った洗い場に、色々の
思い出があります。此頃は毎日の
ように野菜の水洗いで賑わってい
ましたが、特に春から夏にかけて

鵜の木一丁目 天明 道夫

この活気に満ちた洗い場も、次
第に影が薄すれ、消え去って仕舞
いました。この洗い場を最後とし
て、昔から用水に依つて育まれて
来た魚も虫の夜景も、深夜の簡鳥
の鳴き声も、幻の蜻蛉も皆なくな
ってしまいました。
この様な時、災害に遭われた方
々に「おにぎりの一つでも炊き出
しが出来たら」と町会の有志が話
し合い、昭和50年2月3日に女性の集
い(婦人部)が創設され、初代の

リレトエッセイ

婦人部と共に50年

鵜の木二丁目 田村 テル

昭和23年・24年の頃、下水道が
なかった多摩川寄りの住宅は、台
風が上陸する度に床下浸水し、水
が引くまで外部との連絡もとれず、
後片付けに幾日もかかり、大変困
つておりました。
部長に瀬谷(かね先輩)が就任され
ました。私は子育ての最中でした
が副部長(3名)として参加いた
しました。先輩方から社会の裏表
をいろいろと教えられて驚くばか
りでしたが、勉強になりました。

あれから50年、現在は親友の加
賀山(千代)様が6代目部長として
内に外に活躍されておられます。
今回は千鳥南町会の
大芦さんです。

俳句

み仏の在す池上若菜映え
多摩川の風涼しくて夏近し

鵜の木三丁目 斉藤 守市

ポケットに小さき妬心雲の峰
浅草の灯に溶けこみぬ藍浴衣

鵜の木三丁目 越村 百代

短歌

亡き夫につくしたりなく来生も
夫妻となりてつかへはたさん

五十路にて永遠の旅立ち惜し惜しく
母身交りになりてしものを

嫁ぐ娘の日も間近にて夜も深く
桜湯の香り嬉し林しく

千鳥二丁目 松井 きぬ

編集後記

青少年健全育成に町ぐるみ取組
んでいるなか、楽しい思い出の夏
休みがすぐ過ぎるよう嶺町小、大森
七中の校長先生にご意見を伺いま
した。これを参考に充実した家庭
生活の日々を送っていただきたい
と思います。
あなたのご意見、話題がありまし
たらお寄せ下さい。

【池田 進太郎】

鵜の木特別出張所管内	
人口	男 10,677名
	女 10,862名
	計 21,539名
世帯数	10,101世帯
平成8年5月1日現在	